

医学教育 2007, 38 (2): 111~114

報告

バーチャルクラスを通じての海外向け漢方医学教育

渡辺 賢治^{*1,2} 西村 甲^{*1} 石毛 敦^{*1}
 グレゴリー・プロトニコフ^{*1,2} 天野 隆弘^{*2}
 相磯 貞和^{*1}

要旨:

- 1) 世界的に中国伝統医学はよく知られているが、漢方医学はあまり知られていない。しかし漢方医学はわが国では統合医療として行われており、もっと注目されるべきものである。
- 2) 漢方医学に対する関心の高まりを反映して、われわれはウェブ上での漢方医学の信頼できる情報サイトを構築した。これは漢方医学の基本的な理解とともに最新の情報を盛り込んだサイトになっている。
- 3) 本ウェブ上のバーチャルクラスを介して、漢方医学の信頼できる有用性と安全性についての情報を世界に発信していきたい。

キーワード: 漢方医学, バーチャルクラス, アニメーション, 生薬療法

Teaching about Kampo Medicine in Foreign Countries Via a Web-based Virtual Class

Kenji WATANABE^{*1,2}, Ko NISHIMURA^{*1}, Atsusi ISHIGE^{*1},
 Gregory A. PLOTNIKOFF^{*1,2}, Takahiro AMANO^{*2}, Sadakazu AISO^{*1}

- 1) Although many people all over the world are aware of traditional Chinese medicine, *kampo* medicine is not as well known. *Kampo*, traditional Japanese herbal medicine, is an integral part of medical practice in Japan and deserves greater attention.
- 2) In response to increasing interest in *kampo* we have created a web-based virtual class as a reliable source for information about *kampo* medicine. This virtual class incorporates the latest data on *kampo* and numerous features to promote a basic understanding of *kampo*.
- 3) Through this website and virtual class for health professionals, knowledge of the reliability, usefulness, and safety of *kampo* will be shared with the world.

Key words: *Kampo* Medicine, virtual class, animation

漢方医学は古代中国で起こった中国伝統医学を起源とし、日本で独自の発展を遂げきた伝統医学であり、現存する中国の中医学とは一線を画している¹⁾。伝統医学が現在のように注目され始めたのは統合医療に対する世界的関心が高まったため

であろう。米国における代替医療への取り組みは、ハーバード大学医学部 Eisenberg らが 1990 年に行った補完代替医療の使用に対する全米的な調査にその端緒を發する。この結果は全米に衝撃を与え、補完代替医療に対する注目が一気に集ま

^{*1} 慶應義塾大学医学部漢方医学, Department of Kampo Medicine, Keio University School of Medicine
 [〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35]

^{*2} 慶應義塾大学医学部医学教育統括センター, Medical Education Center, Keio University School of Medicine
 受付: 2006 年 5 月 9 日, 受理: 2006 年 9 月 27 日

った²⁾。1992年には米国国立衛生研究所 NIH 内に Office of alternative medicine が設置され、1998年には国立補完代替医療センター (NCCAM) が発足して年々予算が増え、2005年には1億2,100万ドル超の予算となっている³⁾。

慶應義塾大学医学部における漢方医学講座は平成4年に始まった。2002年に米国より Gregory A. Plotnikoff が来日した頃より国際的活動が活発化した。Plotnikoff は内科・小児科のボードを持つが、来日時はミネソタ大学の Center for Spirituality and Healing に所属する助教授の職でミネソタ大学医学部のカリキュラム作成にも深く関与していた。ミネソタ州は全米でも移民の多い州で、世界中の医療を勉強しているうちに、漢方医学がその中でも進んでいることを知って来日した。2003年に米国内科学会にて渡辺と Plotnikoff で更年期障害に対する桂枝茯苓丸の効果について報告したところ表彰を受けた⁴⁾。この結果を受けて、更年期障害に対する漢方薬の臨床研究を計画し、米国医薬品食品局 (FDA) での新薬治験の申請を受理され、ミネソタ大学医学部の倫理委員会の承認を経て、NIH グラントでサポートされている研究施設 (GCRC) を用いた研究が開始された。開始されて1年足らずで目標の180例の登録が終了し、現在解析中である。登録がスムーズに進んだことで、米国で漢方医学は十分に受け入れられることが示された。

また、筆者らはハーバード大学とともに、がんに関する生薬療法について NIH より助成を受けた。こうした経緯から漢方医学について米国研究者と直に討論を重ねてきた。漢方医学はその概念や治療指針などが海外の医師・学生には受け入れ難い医学であると信じられている。しかし欧米ではむしろ伝統医学に対する関心が高まっており、勉強したいという学生が増えている。筆者はミネソタ大学医学部において2003年漢方の講義を学生に行った。学生の関心は高く、質問が相次いだ。しかし学生全員が中国の伝統医学である中医学を知っていたが、漢方については知らなかった。

漢方医学は中国を起源とする伝統医学であり、伝来したのはわが国が国家として成立した5,6

表1 漢方ヴァーチャルクラス目次
<http://web.sc.itc.keio.ac.jp/kampo/vc/index.html>

Kampo Virtual Class Menu

1. What is Kampo?
 2. What is the difference between Kampo and TCM?
 3. Kampo is Japanese integrative medicine
 4. Kampo medicines are standardized and regulated multi-herb formulas
 5. Kampo medicines are prescribed based upon both ancient and modern understandings of disease
 6. How to use Kampo Medicine?
 7. Kampo EBM
 8. Mechanisms of Kampo effectiveness
 9. Formula catalogue
 10. Herb catalogue
 11. Animation
-

世紀頃と考えられている。その後日本化が進んだが、鎖国を機にわが国独自のものとして発展する。漢方という言葉そのものがわが国での造語であり、江戸時代に伝来した西洋の医学を「蘭方」と呼んだのに対して、区別するために「漢方」と名づけられたものである⁵⁾。英語で *Kampo Medicine* といえば日本の伝統生薬療法を指し、Pub Med の検索用語として独立したシソーラスになっている。また、医師が処方する医薬品として用いられていることも現代漢方の大きな特徴である。

しかしそうした漢方医学のことを海外の医師・医学生がほとんど知らないことに大きな衝撃を受け、海外への漢方医学の情報発信が必要と考えた。

このような経緯で作成を思い立ったバーチャルクラスは2003年から準備を開始し、2004年7月にウェブ上にアップした。その目的は以下のようなものである。

- 1) 海外の医師・学生に、日本における漢方医学の医療事情について知ってもらう。
- 2) 漢方医学の基本的考え方、西洋医学との相違について認識してもらう。
- 3) 漢方薬の作用機序の一端を示すことで、非科学的なものではないことを知ってもらう。

ウェブ上で、漢方薬の処方や生薬名の説明をす

ることは基本情報として必要であろうが、まずは日本における漢方医学の使用状況（医師の7割以上が日常診療で使用している）、適応症などについて解説をしている。

次に漢方医学の基本的考え方について、西洋医学との相違について説明しているが、ここでは漢方医学独特の表現はなるべく避けるようにしている。あくまでも漢方医学を全く知らない海外の学生が興味を持つような表現に心がけている。

本バーチャルクラスで特に力を入れているのが、その作用機序を説明するアニメーションである。漢方医学はエビデンスがないとよく言われるが、医療用になってから30年間の間に基礎医学的研究成果は大量にある。残念ながらそのほとんどが邦文である。そうした機序の明らかになっているものを、アニメーションとして示すことが必要である。漢方医学の作用機序を目に訴える形で表現することで、その科学的根拠を示すことが可能である。こうした試みは欧米の医学生を対象にする時に、特に重要と考えている。現在まだ8本しかアップできていないが、今後も継続して増やしていく予定である。

漢方医学講座では現在までに表2のような医師・医学生の受け入れを行ってきた。多くは英語のホームページを見て本講座の存在を知り応募してきた。まず応募してきた段階で、バーチャルクラスで漢方の勉強をするように言う。慶應で受け入れた後もバーチャルクラスを用いて講義を行い、疑問に思った点につきディスカッションを行う。

例えば漢方では「冷え」を重視し、「冷え症」といふ疾病として扱う。冷え症はそれ自体不快であるが、それ以上に月経困難症や関節痛などが冷えによって悪化することから種々の疾患を治療する際に冷えを除くことに主眼をおくこともある。海外からのレジデント、医学生は何故冷えを治療しなくてはならないのかが理解できないらしい。そこで、種々の疾患の増悪因子になっている話をすると納得がいく。

その他診察方法や所見の解釈についても漢方医学の考え方を理解させるのにそう多くの労力を要しないことを見出した。患者を治療する、という

表2 海外からレジデント・医学生の受け入れ (2004年度～)

長期留学
ミネソタ大学医学部助教授 (内科・小児科 Board 保有者)
UCSF 修士課程卒業生1名 (Nurse Practitioner)
医学生5名
米国3名 (ハワイ大学2名, マウントサイナイ大学1名)
オーストラリア1名 (ウェストシドニー大学)
デンマーク1名 (アウフス大学)
レジデント (エクスターンとして1か月間滞在) 2名
米国カリフォルニア州立大学アーバイン校
米国インディアナポリス大学

同じ目的であるからには相互の理解は決して不可能ではない、ということを実感している。

他の東アジア伝統医学が西洋医学とは独立して教育されているのに対し、日本では西洋医学の体系の中に伝統医学である漢方が入っていることが、数ある伝統医学の中でも漢方医学をユニークなものとしている。このことは西洋医学の発展と相俟って東西医学の融合した新しい医学文化を生み出している。例えば大腸がんの手術の後にイレウス予防で大建中湯という漢方薬が用いられるが、これなどは新しい西洋医学と漢方医学の融合の形と言える。今後も西洋医学と漢方医学の新しい組み合わせが出てくることが予想され、わが国独自の医学として世界に発信していく可能性を秘めている。

現在北米には統合医学の講義を行う大学の学術連盟ができていて、31校が参加している⁹⁾。近い将来これらの大学とのリンクをはり、バーチャルクラスが目に見える形にしたいと考えている。現代の技術により、遠隔講義も可能である。あらかじめバーチャルクラスの指定した箇所を読んでもらい、それについてインターネット回線を用いたクラスで討論することも可能である。

文 献

- 1) 渡辺賢治. 漢方薬の国際性を目指して. 日本東洋医学雑誌 2005; 56: 90-95.
- 2) Eisenberg DM, Kessler RC, Foster C, et al. Uncon-

- ventional medicine in the United States. Prevalence, costs, and patterns of use. *New Engl J Med* 1993; **328**: 246-252.
- 3) 米国国立相補・代替医療センター. <http://nccam.nih.gov/>
- 4) 渡辺賢治. FACP 授与式および2003年 ACP Annual Session 報告. 内科専門医会誌 2003; **15**: 227-229.

- 5) 小曾戸洋. 漢方の語の由来と意味. 日本東洋医学会雑誌 2003; **54**: 1-2.
- 6) 統合医学に関する北米学術連盟. <http://www.im-consortium.org/>

●書 評●*****

研修指導スキルの学び方・教え方
—病棟・外来で使える—

日本医学教育学会臨床能力教育委員会・編, 南山堂, B5判, 125頁,
定価 2,940円 (本体 2,800円), 2006年12月

本書は、臨床研修指導医に求められる指導スキルをいかに養うかを示したものである。臨床研修、専門医トレーニングや学生の臨床実習だけでなく、後輩医師を育てようと思っている多くの臨床医に読んでいただきたい本である。

本書は2004年から日本医学教育学会「臨床能力教育委員会」が主催した「若手指導医のための指導スキルアップ」セミナーで培われた教材、資料が読み物としての形を与えられ、個人学習の教材にもなるし、研修指導医ワークショップを企画する人にとってはよき資料集ともなるものである。構成は、「指導医の本音を出し合おう」「魅力的な教え方とは？ その1」「コミュニケーション技法を身につけよう」「臨機応変な教え方」「上手なプレゼンテーションのし方」「魅力的な教え方とは？ その2」「上手な症例提示とは？」「効果的なフィードバックのし方」からなり、それぞ

れのテーマに、ワークショップでのグループワークの仕方とグループワーク後に提供される講義が示されている。講義には、シカゴ大学のボダージ先生の「知識構造が診断の思考過程に及ぼす影響」やボストン大学のラマーニ先生の「ベッドサイド教育の指導医への助言」(ともに大滝純司先生が邦訳)もあり、大変すばくに富むものとなっている。

現在、広く行われている研修指導医講習会ではカリキュラムプランニングや医療安全などに重点が置かれているが、本書では、プレゼンテーションの指導法、症例提示の指導法、auditのやり方など病棟、外来での実際の場での指導スキルに力点を置いている。後輩を指導する医師にとってその場で役立つチップス集となっている。

(東京慈恵会医科大学 福島 統)